

米軍ヘリ墜落事故に抗議し、在日米軍基地の撤去を求める(談話)

2013年8月6日

安保破棄中央実行委員会

事務局長 東森英男

昨日、沖縄県宜野座村にある米軍基地キャンプ・ハンセン内の山中に米軍嘉手納基地所属のヘリコプターが墜落、炎上する事故がおきました。

事故現場は、基地内とはいえ宜野座村の山林であり、2キロ離れたところには民家があり、至近に高速道路があるなど、あわや大惨事にいたるところでした。宜野座村に占める米軍基地は実に50.7%に及び、連日低空飛行訓練が繰り返され、住民は命の危険にさらされています。こうした事態は宜野座村だけでなく、沖縄の多くの住民が直面している現実です。

沖縄における米軍機の墜落事故は1972年の施政権返還後だけでも今回までに44件起き、死者・行方不明者は計84人に上っています。このような、基地あるが故の不安は一刻も早く除去されなければなりません。

筆舌に尽くしがたい苦難の体験を強いられた沖縄県民はいま、辺野古新基地もオスプレイ配備も拒否し、「オール沖縄」で基地のない沖縄を求めています。

私たちは日米両政府に対して、今回引き起こされた事態に強く抗議するとともに、在日米軍基地の速やかな縮小、撤去を求めるものです。

このような現状にある沖縄に、墜落事故を繰り返す欠陥機オスプレイを追加配備することは断じて許されません。私たちは、普天間基地への追加配備をただちに中止し、オスプレイの撤去を要求します。

今回、事故に日本側の立ち入り調査が及ばない問題がまたしても明らかになりました。昨日の事故に対して、警察も消防も基地内の事故現場に立ち入ることを米軍によって拒否されています。住民の生命にかかわる事故のあいまいな処理を許さず、真相を究明して再発を防止することが求められています。私たちは日本政府に対して、日本の調査権、捜査権の行使と、その障害になっている日米地位協定の改定を強く求めます。

私たちは、繰り返される米軍による暴挙を断じて許さず、在日米軍基地の撤去を改めて求めるとともに、その根源にある日米安保条約廃棄に向けて奮闘する決意を表明するものです。

以上